

参議院本会議・代表質問で「感染症対策」について議論が交わされました !!

令和5年1月27日（金）の参議院本会議において、福岡県選出の**大家敏志参議院議員**が、**岸田文雄内閣総理大臣**の施政方針演説について、自由民主党を代表して質問されました。

大家議員は、「歴史の転換点」に果敢に向き合うべきとの視点から、経済の「稼ぐ力」を取り戻すこと。「人」を大事にするものの二つの柱で質問されました。

その中の、「**人獣共通感染症**」についての質疑を紹介します。



【大家敏志参議院議員】

いつ、また、世界的な規模で広がり、襲ってくるかわからない新たな感染症に対応するためには、**新型コロナの経験を活かした対策**が必要です。

現在、政府においては、内閣感染症危機管理統括庁や厚生労働省感染症対策部を設置するとともに、国立の感染症研究所と国際医療研究センターを統合し、科学的知見の基盤となる専門組織を創設することで、これら三者で一体的に対応していく体制構築を図る方針であります。

しかしながら、専門家によれば、約6割の感染症とほぼすべての新興感染症が、動物にも人にも感染する**人獣共通感染症**だと言われており、新たな感染症に対応するためには、**医学と獣医学の分野横断的な連携**が必要となります。

感染症対策は、必要な動物は大きく三つに分かれます。

一つは家畜家禽、この感染症は農林水産省の所管であります。二つ目は愛玩動物、いわゆるペットです。三つ目は野生動物。しかし、ペットと野生動物の感染症については、関係法令や国の研究機関はなく、空白領域となっているのが現実であります。

そこで、**福岡県は国に先駆け、人と動物と環境の健康を一体的に考えて、人獣共通感染症に対応するワンヘルス構想を先行的に進めてきています。**

具体的には、アジア獣医師会連合（FAVA）、藏内勇夫 FAVA 会長の就任を機に福岡オフィスを設置し、国際的な連携を強めるほか、国の機関として「**アジア振興人獣共通感染症センター**」の九州への設置を目指すとともに、家畜保健衛生所業務について、現行の家畜家禽のほかに、ペットや野生動物にも拡大した「**ワンヘルスセンター**」の設置を目指しています。

国も新たな感染症に備えた危機管理として、動物感染症の空白領域を埋め、人獣共通感染症にしっかり対応できるよう、福岡のような先行的な活動への支援や、関係する国の機関の連携強化などを具体的に進めていただきたいと考えますが、岸田総理のお考えをお伺いします。

加えて、昨年末のG7では、共同声明を取りまとめていただきました。

本年5月に開催される「広島サミット」において、この人獣共通感染症を含む国際的な感染症対策の強化、充実について、岸田総理のイニシアティブでワンヘルスへの取り組みを、さらに前へと押し出すべきと考えますが、岸田総理のご見解をお示ください。



【岸田文雄内閣総理大臣】

人獣共通感染症についてお尋ねがありました。

感染症対策については、人と動物は相互に密接な関係があることから、ワンヘルスの考え方に基づき、総合的に対応していくことは重要です。

政府としては、人獣共通感染症への対応についても、内閣感染症危機管理統括庁や、いわゆる日本版CDC（疾病対策予防センター）の設置等により、司令塔機能を強化する中で、関係省庁の一層の連携強化を図ってまいります。

G7広島サミットにおいては、国際保健を重要課題の一つと位置づける考えです。ユニバーサルヘルスカバレッジの対策に向け、将来の健康危機に対する予防備え、対応の強化に資する国際的な枠組みの強化へ、ワンヘルスの取組みの推進を含めた国際保健所の諸課題へ対応を議論し、そしてリードをしていきたいと考えております。

※「ユニバーサルヘルスカバレッジ」

「全ての人々が適切な予防、治療、リハビリ等の保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる状態」を指します。

2023年1月28日

福岡ワンヘルス協議会・事務局